

健康ひとくちメモ

「子宮頸がんワクチン」について

文 しんたくレディースクリニック 院長 新宅芳行先生

この1月から、中学1年～高校1年の女子生徒に対して、子宮頸がんワクチンの接種が、無料でできるようになっています。日本では1年間に12,000人の方が子宮頸がんを発症し、2,500人の方が亡くなっています。子宮頸がんは高齢者の病気ではありません。最近では20～30歳代の方が急増して、一番多い年齢は30歳代です。若い人に多いのが他のがんと大きく異なります。また子宮頸がんは、予防できる唯一のがんです。子宮頸がんの発症にはヒトパピローマウィルス（HPV）の感染が大きく関わっていることが判明し、感染を予防できるワクチンができたためです。

HPVは性交渉により感染しますが、一般的な男性の3人に2人から検出され、性経験のある女性の8割が一度は感染します。つまり、感染しないように気をつけるのは不可能に近く、誰にでも感染の危険があると言えます。多くの場合、感染したHPVは1年くらいで自然に消えていきます。自然に消えなかったごく一部の方が子宮頸がんになります。

子宮頸がんを起こすHPVは15種類あります。今回開発されたワクチンは、その中でも若い人ががんを起こす2種類に対するワクチンです。残りの13種類には効かないので子宮頸がんの発症を完全に防ぐことはできませんが、子宮頸がんになるのを70%減らします。特に20～40歳代の

若年者の子宮頸がんを減少させます。ワクチンは感染を予防する働きはありますが、すでに感染しているHPVを排除する効果はありません。よって、最も効果的な接種時期は性経験前のHPV未感染状態の時です。

ワクチンは3回接種（2回目は1カ月後、3回目は2回目の5カ月後）します。効果は20年以上持続します。ワクチン自体は、感染性のない人工的に作ったウィルス様粒子で安全です。肩への筋肉注射なので、インフルエンザワクチンのような皮下注射より痛みがあります。通常よく見られる副作用は、注射した部位の発赤・腫れですが、3～4日で自然に治ります。

ぜひこの機会に対象となる女子生徒さんが全員接種されるようお願いいたします。なお、26歳までの女性に対しては、性経験の有無に関係なく、ワクチン注射の意義が十分ありますので、希望される時は婦人科や内科の先生に相談してください。費用は、1回15,000円～18,000円です。

子宮頸がんは検診で早期発見でき、子宮をとることなく一部の切除のみで治療することができます。ワクチン接種の有無にかかわらず、定期的に子宮頸がんの検診を受けましょう。